

新型コロナは第3の黒船か

ー 江戸を超えて「柔らかな資本主義」へ ー

第1章 時は今、発想の転換

- (1) 新型コロナは第3の黒船
- (2) 「周回遅れ」という現実
- (3) そして現在の立ち位置は
- (4) 改革、今なぜ、ゲームチェンジか

普通には第1の黒船=ペリーの黒船、第2=GHQ 占領、第3=新型コロナと考えたいが、実は第3=冷戦終結、第4=IT革命の存在に気付かず、日本は周回遅れになってしまった。第5=新型コロナは自然と対峙する破滅的危機と考えるべきだ。

第2章 「柔らかな資本主義」の目標づくり

- (1) 「所得倍増」から「柔らかな資本主義」へ
- (2) GDPに代わる新しい社会指標とは
- (3) 「幸せな生き方」指標 HLCI の提案
- (4) 「柔らかな資本主義」に向けた日本の目標

山崎正和は「柔らかな個人主義の誕生」する社会を期待したが、日本は残念ながらそうは進まず、停滞。日本を土台から変えるべきで、江戸時代をモデルに「柔らかな資本主義」を提案し、そのKPIとして評価指標 HLCI を提起する。

第3章 「柔らかな資本主義」をどう実現する

- (1) 「人を生かす」経済復活とは
- (2) 挑戦と貢献のマルチ人生
- (3) 義務教育から全世代教育へ
- (4) 格差是正は BI・BS で

停滞の最大要因は「終身雇用と年功序列」の慣習である。抜本改革策として①50才定年制、②結果平等から機会均等と多様性を重視する教育、③最貧弱者の無条件救済の3本柱で「一億総中流」の復活を目指すべきである。

第4章 最優先は、政治の意識改革

- (1) 民主主義という政治の仕組み
- (2) 新しい道州制で「群雄割拠」の枠組み作り
- (3) 「持続可能な社会づくり」は政府の責任
- (4) 経済再生は「IT基幹サービス網」づくりから

上記を実現するには政治の意識改革と世代交代が最優先課題である。①都道府県連携の新道州制、②エネルギー確保に向けた開発強化と自給自足の促進、③サービス重視のITインフラ再構築に全力投球すべきである。

第5章 「第3の黒船」は、未来へのキックオフ

- (1) 「第3の黒船」のゴールはどこに
- (2) 2050年復活を目指したロードマップ
- (3) 日本は、新時代にどう立ち向かう

最優先の第4章を2030年までに目途をつけ、第3章の重要課題はSDGsの2050年を目標に、国民が一致団結して取り組むべきである。その心は日本人の持つ「究める」精神による挑戦である。